

2022年6月19日石川県能登地方の地震の評価（案）

- 6月19日15時08分に石川県能登地方の深さ約15kmでマグニチュード(M)5.4（暫定値）の地震が発生した。この地震により石川県で最大震度6弱を観測し、被害を伴った。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。
- 今回の地震の震源付近では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっている。一連の地震活動において、2020年12月1日から2022年6月20日●時までに震度1以上を観測する地震が159回、このうち震度3以上を観測する地震が27回発生した。今回の地震発生以降、6月20日●時までに震度1以上を観測する地震が8回発生した。

一連の地震活動において、今回の地震が最大の地震である。この他、2021年9月16日にM5.1の地震が発生し最大震度5弱、2022年6月20日にM5.0の地震が発生し最大震度5強を観測した。
- 一連の地震活動は、東西約15km、南北約15kmの領域で発生しており、主に4つの地震活動域が見られる。特に北側と東側の地震活動域で地震活動が活発である。今回の地震及び20日のM5.0の地震は、そのうち東側の地震活動域で発生した。東側の地震活動域では、2021年9月16日にM5.1の地震が発生し、2022年3月頃からはM3.0程度以上の地震回数が増加していた。
- GNS観測の結果によると、2020年12月頃から、石川県珠洲（すず）市の珠洲観測点で南南東に累積で1cmを超える移動及び4cm程度の隆起、能登町の能都（のと）観測点で南南西に累積で1cmを超える移動が見られるなど、地殻変動が観測されている。珠洲観測点の変動は、現在も継続している。一方、能都観測点の変動は、2022年1月頃から鈍化しているように見える。

なお、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 揺れの強かった地域では、地震発生後1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意が必要である。特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くある。
- これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、一連の地震活動は当分続くと考えられる。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。